

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/25】

この試合のプレー集計

男子Dリーグ戦

山形県選抜

1

0	—	4
0	—	5
0	—	3
1	—	3

15 埼玉選抜

PSO

潮崎 正一

審判：

塚本 龍一

山形県選抜	11	SH数	24	埼玉選抜
	0	速攻数	10	
	5	ST・SB	18	
	2	SH・P誘発アシスト	5	
	29%	GK阻止率	80%	
5	EX反則数	5		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

予選リーグでは苦しい戦いが続く山形。対する埼玉は決勝トーナメントでの戦い方を占う上でも、しっかりとディフェンスからのスピード水球の更なるレベルアップを目指したい一戦。

【1P】

戦前の予想通り、山形の攻撃時の埼玉ディフェンスが上回り、山形パスを封じてからの速攻で埼玉③秋田が先制点をマークすると、⑥吉川がペナルティを誘発して追加点、さらに山形攻撃を断ち切ってからの速攻→アーリーオフェンスからセンター⑤菊池が3点目。ピリオド最後もカウンター攻撃で③秋田が決めて、山形0-4埼玉で第1ピリオド終了。山形は再開後の攻撃でパスが繋がらず、埼玉側の圧力に屈する形で劣勢に立たされた。埼玉は本来の守備→カウンターという流れで、ほぼ攻撃回数でのミスもなく、得点を重ねるといった理想的な展開となった。

【2P】

このピリオドもほぼ同様の展開となり、山形攻撃を封じてからの速攻を軸にした埼玉が、センター⑤菊池やミドルレンジから④稲垣や⑩池田が決めて、山形0-9埼玉と大きくリードを奪った。山形の攻撃には気迫が感じられず、ゴール前へ泳ぎこもうという雰囲気薄い。外周からの攻撃に工夫がなく、完全に後手に回っている状態となった。ディフェンス面でも数的不利な状況から、埼玉ボールを止めることができず、失点を重ねてしまう展開となった。こうした展開をどう断ち切るかというベンチワークも不足していて、再開後の攻撃では早めにセンター位置にボールを入れて、外周はやや引く形でまずはディフェンスを固め、埼玉側の攻撃を一旦断ち切ってからの山形攻撃に切り替えるなどの明確な指示があっても良かったと思われた。

【3P】

埼玉側は選手交代で中学生主体に。その分、守備も攻撃もスタメンほどのプレッシャーはないが、そうした展開でも山形は腰が引けているような状態で、十分な圧力をかけられないまま時間が経過。埼玉カウンターはやや減ったものの、それでも交代した⑫狩野が速攻で連続得点、さらに⑨山中が左サイドから決めて、山形0-12埼玉と一方的な展開で第3ピリオド終了。

【4P】

開始早々の埼玉攻撃ミスで山形⑦遠藤が突き、退水を誘発。そこを⑨金澤が決めてようやく山形が1点を返した。しかしながら山形の反撃もここまで。攻撃が繋がらない山形から、埼玉中学生⑭松本が2得点をマークするなど、このピリオドも埼玉が制し、最終的には山形1-15埼玉という結果となった。

最近の山形はジュニア水球の指導者交代時期から実力低下が顕著となり、そうした影響が高校生世代にまで影響してきている。何とか指導体制を立て直して、復活を期待したいところ。埼玉は埼玉栄とエス水球主体のチームということで、日頃から一緒に練習しているチームらしく、選手交代でのコミュニケーション不足も感じられないようで、決勝トーナメントでの躍進に期待が持てるものがある。